

# 崇学会だより

## 第7号

発行日 2013年2月23日

発行所 崇学会事務局

〒860-0082

熊本市西区池田4丁目2番1号



崇城大学  
学長 中山峰男

全国でご活躍の卒業生の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今回、「崇学会だより」が復刊したことで、今後ますます卒業生の方々と母校とのコミュニケーションが図れることと慶んでおります。

さて、激動の時代を迎え、本学でも全教職員が一致団結して教育指導に充たっております。「実学主義の教育」を理念に挙げ、日々実践を重視した教育に注力しています。それを代表する一つが熊本空港に隣接する空港キャンパスです。本学の学生は本物の航空機に直接触れ、操縦およびメカニクを学ぶことができます。このように五感で学ぶ実践・体験学習は非常に教育効果が高いものです。

また、昨年8月には、将来性の高いナノテクノロジーの研究・教育拠点として、新棟が完成しました。更には、薬学部における薬剤師国家試験での毎年の高い合格率、西日本初の「DDS」(ドラッグデリバリーシステム)＝健康な細胞に影響を及ぼすことなく、薬効成分を目標とする患部だけにピンポイントで届ける技術)研究所の設置もその一つになります。更に特徴的なのが、グローバル化の時代に対応できる「英語教育」です。本学の SILC(シルク)SOJO International Learning Center という英語教育施設は、英語ネイティブ講

師が常駐しコミュニケーション重視の教育を行っています。講師は、世界各国から公募し「外国人に英語を教えられる資格を有する修士以上の者」を選出しています。

また、海外提携校における短期海外研修も活発に行っています。昨年はインドのラジャギリ工業技術大学に10数名が研修に参加しましたが、海外での研修に触発され、帰国後に2名がインドへ留学し研鑽を積んでいます。このように国際交流を通して現代社会で求められているグローバル人材育成のための様々な機会を準備しています。

このような、本学の教育実績、教育環境の整備についてご理解頂き、これまで以上に母校崇城大学へのご支援を賜りたくお願いいたします。最後になりましたが、会員の皆さまの益々のご活躍をお祈りいたします。



2012年8月、ナノテクノロジーの研究・教育拠点として、最新の省エネ技術を取り入れたナノサイエンス学科新棟(研究棟)が完成。2013年12月には、図手前の多目的講義棟が完成予定。



崇城大学  
SOJO UNIVERSITY



【新会長挨拶】



崇学会  
会長 佐野 次郎  
昭和 51年 機械工学科卒

富永会長の後任として、今年度から会長をさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。崇学会は、熊本県の130名を始めとして、西日本各地に総勢250名を超す会員数となり、各地に支部も設立されるなど、短期間で飛躍的に大きく発展してきました。また、会員の中から管理職も誕生して、熊本県では、校長3名、教頭3名、教育センター主任1名、その他、教頭に佐賀県1名、宮崎県2名、広島県1名と徐々に増えてきております。さらに、今年度の教員採用試験で熊本県の中学美術に合格者1名ができました。これから先、工業系の専門高校以外にも美術や理科など普通教科の会員が増えていくことが望まれます。

さて、今後も崇学会がさらに発展していくためには、会員の皆様一人ひとりが崇学会の一員であるとの自覚を持ち、協力していただく事が何より必要であると思えます。そのためにも、崇学会のあり方を今一度見直し、活性化させていきたいと考えております。まずは、崇学会のホームページを随時更新させ、崇学会だよりも年に1、2回は発行し、情報発信をしていきたいと思えます。そして、総会や幹事・支部長会では研修の一環として、高校や大学からのプレゼンテーションまたは、有識者の講演などを暫く計画していきたいと考えています。その他、年会費からの補助として、希望する会員に研究助成を行い、その研究成果を総会等で発表していただきたいと思っております。

最後に、母校崇城大学は、施設設備はもちろん、教育・研究内容も充実して、西日本有数の総合大学に成長しています。今後、崇学会・崇城大学がさらに充実し発展していくためにも、崇学会は、大

学との連携を密にしながら協力並びに支援していくことが大切だと思います。会員の皆様には、今後御協力の程を重ねてよろしくお願いいたします。

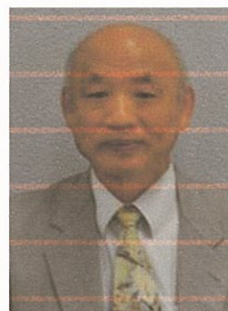
【新副会長挨拶】



崇学会  
副会長 馬場崎 慎一  
昭和 56年 電気工学科卒

この度、崇学会の副会長を拝命いたしました。本会の会員は全国で250人を超えるようになり心強い限りです。会員の皆様におかれましては、教育課題が山積している昨今、悪戦苦闘の毎日ではないでしょうか。近年は職員間の関係も希薄になり、様々な課題に対して孤軍奮闘している状況もあるようです。そのような中、会員相互の交流の場として、研修の場として本会の果たす役割は大きいものがあります。

微力ながら、本会の発展にお役に立てれば幸いと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。



崇学会  
副会長 横田 尚也  
昭和 52年 機械工学科卒

崇学会の皆様方には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平成24年度崇学会副会長を拝命いたしました文徳高校の横田です。どうぞよろしくお願い致します。

私は、崇城大学と関連校である文徳高校に勤め、丸33年が過ぎました。その間、隣接する崇城大学は発展の一途をたどり、5学部・11学科を擁するまでに成長いたしました。

施設・設備もその充実を図るためにその鈍音が途絶えることはありませんでした。

母校「熊本工業大学」は、1967年開学、2000年に「崇城大学」と改称し今日に至っております。



ます。開学45年を過ぎようとする大学は、人年齢で言えば、正に壮年期に当り充実期を迎えております。崇学会メンバーも工学部のみならず、芸術学部や情報学部、応用生命学部出身者も存在するようになりました。尚一層の発展が期待される組織作りを目指していきたく存じておりますので、会員各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 【顧問】



崇学会  
顧問 山本康詞  
昭和49年 土木工学科卒

私は昭和52年電気工学科卒の山本でございます。崇学会の皆様には日頃から崇城大学（熊本工業大学）の卒業生としての誇りを持ち、わが国の教育の充実・発展のために、尽力されておられますことに心から敬意を表します。

今日、学校を取り巻く情勢は、ご承知の通り不透明な社会情勢を反映して、教育環境も大変厳しいものとなっております。さらに入学してくる生徒の家庭環境も複雑化し、皆様方のご苦勞もいかにばかりかと思えます。

このような中、私の勤務校では主任・主事をはじめ、各分掌の要を崇学会の後輩職員が務めてくれており、大変心強いところです。

この度、崇学会の新体制が発足しました。各学校内だけでなく学校間を越えて協力し合える関係づくりができればと思っております。

私も微力ではありますが顧問としての役割を果たしていきたいと決意を新たにしているところであります。皆様方のお力添えをどうぞお願いいたします。



崇学会  
顧問 山下 幸美  
昭和53年 建築学科卒

現在、学校現場に山積する様々

な教育課題に対処するために、教員一人一人に高い指導力と対応力が求められています。校長を含め教員相互に助け合い、学校の組織的な課題解決能力を強化することが必要不可欠です。また、いわゆる団塊世代の退職に伴い先輩教員が少なくなる中、職場で先輩教員にもまねながら身に付けてきた教員としての指導力や指導法の継承は難しくなっています。若手教員が実力ある教師として成長していくためには、教員相互のコミュニケーションが十分に取られ、相互に支え合い、高め合う環境が求められています。

そのような状況を打開するためには、崇学会員の人材育成を意図的かつ計画的なものへと転換する体制を整える必要があると考えます。さらに、新規採用の崇学会員から管理職までの各職層に応じた身に付けるべき力を提示するとともに、人材育成の道筋を明確化し、各職種への育成を図っていかねばなりません。

今後、崇城大学とも相互に連携

しながら、人材育成、能力開発の意識を、校長はもちろんのこと崇学会員一人一人に浸透させ、会員及び崇城大学の学生等の人材育成を着実に推進させていきたいと考えております。

## 編集後記

今回、崇学会だより第7号を発刊するにあたり、新役員の就任された先生方にはお忙しい中ご執筆頂き大変お世話になりました。

今後も、会員相互の親睦及び情報交換など円滑な活動が図れるよう、事務局としても新たな提案をしていきたいと思っております。

今後とも、崇城大学と崇学会がますます発展しますよう、会員の皆様のご支援とご協力をお願い致します。

崇学会事務局 学生厚生課 金田 博文 (H3年 工業化学科卒)



# 崇城大学情報

崇学会の皆様こんにちは。日頃から母校崇城大学の研究・教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

本学は、現在、工学部・芸術学部・情報学部・生物生命学部・薬学部の5学部10学科を擁する総合大学として、次代を築くための興味ある学びに取り組める豊かな環境を整えています。

また、本学は多額の助成金や産官学連携が示す一流の教授陣による高度な研究内容において、社会的に高い評価を得ています。

これから高校生がどのような進路をめざそうとも、本学は一人ひとりをしっかりと導き、社会で役立つ人材に育てます。

■工学部	機械工学科 ナノサイエンス学科 建築学科 宇宙航空システム工学科	■生物生命学部	応用微生物工学科 応用生命科学科
■情報学部	情報学科	■芸術学部	美術学科 デザイン学科
		■薬学部	薬学科(6年制)

## 1. 崇城大学の魅力

- ①産官学交流／先進的研究成果の実用化や商品化へ向け、企業や自治体、他大学や研究機関との交流を推進。
- ②一流の教授陣／客員教授としてノーベル賞受賞の小柴博士や根岸博士をはじめとする、世界レベルの研究者から学べます。
- ③充実の施設・設備／英語教育の充実を図るために設置された「SILC」や「DDS(ドラッグ・デリバリー・システム)研究所」、「空港キャンパス」など、プロ養成のための施設・設備を高次元で整備。
- ④資格取得への指導／各学部・学科で中高教員免許をはじめ、専門教育をいかした資格取得の指導を展開。人間科学や外国語に加え、多彩なゲストスピーカーによる教養講座などをプラスした「総合教育」がプロをめざす土台としての基礎力を高めます。
- ⑤学生の起業支援／「特許講座」を開講。学生1人1特許の出願・取得を目標とし、企業につながる指導を行っています。
- ⑥高い就職内定率(96.6% 2012年3月卒業生実績)／就職に強い理由(わけ)は、学生たちの就職に対する想いの強さと頑張り、それをサポートする本学のバックアップ体制にあります。
- ⑦学費サポートも充実／特待生制度がさらに充実、本学で学びたいという高い意欲を強力にサポートします。最大210名の受験生が特待生として何らかの免除を受けることができます。

## 2. ニュース&トピックス

### 工学部 ナノサイエンス学科新棟が完成！

昨年9月にナノサイエンス学科新棟(床面積約4800㎡)が完成しました。

これは、エコキャンパスを目指し節電や環境負荷低減に取り組んできた設備計画の一つであり、新棟には自然光や消費電力の少ないLEDを採用するなど最新の省エネ技術が取り入れられます。

また、本学は学校法人として全国初のCO2排出削減につながる投資をする環境省の利子補給制度が適用されました。

### ●資料請求・問い合わせ

〒860-0082 熊本市西区池田4丁目22番1号 崇城大学 入試課

TEL. 096-326-6810 FAX. 096-326-6801

<http://www.sojo-u.ac.jp/> E-mail:nyushi@ofc.sojo-u.ac.jp